



今回から連載を始めるレンジャーレポートは、多くの人を魅了する国立公園を一番よく知る、現地レンジャー（自然保護官）の視点から、隠れた見所、お勧めスポット、各種取り組みなど、国立公園の「今」をお伝え（レポート）します。

伊勢志摩国立公園の楽しみ方

志摩自然保護官 下川 元三

名古屋から車や電車で南に2時間ほどの志摩半島に伊勢志摩国立公園があります。

国立公園(National Park)は世界中にあります、その多くでは手つかずの自然が残された地域を未来に引き継ぐべく、人間による利用は、最小限に抑えられています。

しかし、伊勢志摩国立公園は、10万人近い人が国立公園内に住み、生活をしているという点で異色と言えるかもしれません。伊勢志摩国立公園の特徴でもある複雑な海岸線は、伊勢湾や太平洋の恩恵も受けながら豊富な漁業資源を育んできました。また、背後に広がるウバメガシに代表される常緑広葉樹の森は、炭や薪として人の生活と切っても切り離せない関係が長い間続いてきました。

近年、「里山」「里海」という言葉をよく聞きますが、自然と仲良く共存共栄する生活を垣間見ることができる国立公園、それが伊勢志摩の特徴と言えます。展望台から眺める景色は格別ですが、車を降りて、漁港や海岸、山道を歩いてみることを私はお勧めします。



一昨年、指定60周年に合わせて刊行された「伊勢志摩ウォーキング60」は、伊勢志摩を楽しむ助けになると思います。(横山ビジターセンターのホームページで閲覧できます)

海辺では、リアス式海岸が数え切れないほどの湾を造り出し、その一つ一つに異なる顔があることに、山道では、人が森林を利用してきた知恵に、それぞれ驚かされることでしょう。暖かくなってきたこの時期、多くの動物や植物に出会うこともできます。「ゴミを捨てない」「動植物を傷つけない」といった自然へのいたわりも大事ですが、人に出会ったら是非声をかけてみてください。ひよっとすると、地元ならではののおもしろい話が聞けるかもしれません。

横山や鳥羽のビジターセンターでは、展示や解説員が伊勢志摩の楽しみ方を教えてくれます。

横山ビジターセンター

☎0599-44-0567 <http://www.yokoyama-vc.jp>

鳥羽ビジターセンター

☎0599-25-2358 <http://www.ise-shima.or.jp>



Focus

ストップ
温暖化

「一村一品」大作戦

全国大会2008

温室効果ガスの削減に向け、日本の各地で行われているユニークな活動を全国から集め、紹介する「ストップ温暖化『一村一品』大作戦全国大会2008」が、2月9日・10日に東京・丸ビルホールで開催され、中部地域からは、富山県代表の「富山港線のLRT化による公共交通活性化」が銀賞を受賞しました。

この取り組みは、JR富山港線を路面電車化(LRT化:Light Rail Transit)し、日中10~15分間隔での運行や終電時間の延長などのサービス改善を図り、また、低床車両の導入や段差の無いホームにより、バリアフリー化しているものです。

公共交通の利便性を高め、その沿線に人口を誘導することにより、都市機能の集積を図り、車に頼らなくても生活できるまちを目指しており、CO₂削減の観点からも非常に効果的であるとことが評価されました。



鴨下大臣
と語る

希望と安心の国づくり

内閣府主催の国民対話「鴨下大臣と語る希望と安心の国づくり」が2月23日に名古屋市中区のアリス愛知で開催されました。

「快適な都市環境の創造に向けて」をテーマとして、初めに、地球温暖化を防ぐ都市づくりや環境の質を高める都市づくりについて鴨下大臣がプレゼンテーションを行いました。その後、参加者との意見交換において、「市民への環境大学講座の開催や、交通環境家計簿でCO₂排出が実感できる取り組みを全国にも広げてほしい」、「道路や宅地の緑化を推進する仕組みが必要ではないか」、「義務教育の中で田植えや稲刈りの体験を実施してほしい」など多数の質問や意見が寄せられ、活発な議論が行われました。

環境省では、これらの意見を今後の政策に生かしていくこととしています。

